霧ケ峰の草原の成り立ち

『長野県環境保全研究所研究報告　第3号』 2007年　浦山佳恵論文より

草原化の始まりは鎌倉時代

- 霧ケ峰高原の標高1500m以上には、約1000haという日本最大規模の亜高山帯の草原が広がっている。
- この草原は、採草利用により維持されてきた二次草原
- 霧ケ峰で草原化が始まったのは、鎌倉時代からとされる。（八島ヶ原湿原と踊場湿原での花粉分析結果による）
- 諏訪大社の御射山祭で獣を追い出すための火入れを伴う狩猟が行われ、鎌倉時代以降草原化が進んだのではないかと考えられる。

入会集落による霧ケ峰高原の資源利用

- 近世以降、諏訪地域では新田開発と肥料の多投が進んだことにより、肥料の需要が高まった。また、東麓集落では、馬飼育が盛んだった。
  → 飼料、肥料として霧ケ峰の採草利用が進んだ。

〈水田の主な肥料〉
刈敷･･･　草や芽吹いた雑木の小枝
干草
厩肥･･･　草を飼料や敷料として厩を通したもの
青灰･･･　草を焼いたもの

明治以降の採草利用の減少

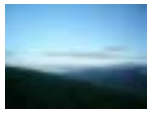
- 明治以降諏訪地域では製糸業が発展するとともに養蚕が盛んになった。
- 養蚕が盛んになると、夏秋蚕飼育と草刈り労働との競合や現金収入の増加により、水田への金肥の利用が進み、厩肥生産を目的とした馬飼育が減少した。
- 一方、西麓集落では農耕牛が飼育されるようになったことと関連して、標高1500m以上では比較的採草利用が維持された。

昭和30年代前半を堺に採草が行われなくなった

- 昭和30年（1955年）頃から土地利用形態や産業構造の変化に伴い放置される場所が多くなり、採草、火入れが行われなくなった。
  （信州野外研究会　土田勝義『霧ケ峰高原の森林化の実態と刈取り実験による草原の維持に関する調査報告』より）
- 昭和39年（1964年）霧ケ峰が国定公園の特別地域に指定された。

【事 務 局 の 考 察】

霧ケ峰の草原は、採草利用という経済活動により維持されてきた

⇩

いかに採草に代わる新しい経済活動を見出していけるかが
霧ケ峰の保護と利用の一つの鍵